平成１５年度第３回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：平成１５年４月５日（土）１３：００～

場所：東淀川勤労者センター　第５会議室

出席者：柳田会長、児玉副会長、美宅副会長、阿久津、猪飼、入佐、上田、川端、佐甲、諏訪、中村、三木、薬師、各運営委員、垣谷平成１４年度年会実行委員長、森島平成１６年度年会実行委員長、河合秘書

議長：児玉副会長

報告事項：

１　賞・助成金推薦委員会報告　（児玉；資料：報１）

標記の件について資料のように児玉副会長から報告があった。２００２年度については、山田科学振興財団研究援助、日産科学賞、島津賞、東レ科学技術賞、井上学術賞、内藤記念科学振興賞、上原賞、の７件の推薦を行ったが、内藤記念科学振興賞（郷通子）のみ採択されていることが報告された。また、２００３年度では、山田科学振興財団研究援助の候補者として神取秀樹（名工大）と曲山幸生（食総研）の両氏を推薦したことが報告された。

２　日本光生物学協会委員会報告　（柳田；資料：報２）

標記の件について資料のように柳田会長から報告があった。

３　編集委員会報告　（猪飼；資料：報３）

標記の件について資料のように猪飼氏から報告があった。特にオンラインジャーナルに関して活発な意見が出されたことが報告された。この件に関しては議題の６と７で議論された。会長経験者が亡くなった場合には依頼原稿として追悼文を掲載することが確認された。

４　平成１５年度年会準備状況　（美宅；別冊の資料あり）

平成１５年９月２３日（火、祝）から２５日（木）の３日間、第４１回年会が神経科学会と合同で新潟において開催される（神経化学会は２４日～２６日）。新潟朱鷺メッセ。神経化学会との合同シンポジウム、公開シンポジウム、一般発表（ポスターのみ）、公募シンポジウム・ポスターセレクションシンポジウム、ランチョンセミナー、合同懇親会（二日目）などが骨子となる。一般発表であるポスターは、期間中継続して展示することができ、希望者には PC 用の電源とイスを提供する。（ただし、情報端末はない。）ポスター発表の待機義務時間は二日目の午前中に設ける。発表申し込みは６月１０日、参加申し込みは８月２０日が締め切りとなる。（振り込み期限は８月２７日。）懇親会の参加費が例年と比べ、５００円上がった。郵便法の改正に伴い、年会費と懇親会費の振り込みを郵便振り替えから銀行振り込みに変更する旨が提案された。このような大きな金額を集める場合、申請と審査が必要になり、今回間に合わなかったとの説明があった。郵便振り替えでは必要のない手数料が必要となる。いくつかの議論があったが、運営委員会はこれを承認した。また、学会費の方は従来通り郵便振り替えのままであ

ることが確認された。
中村氏「オンライン登録の際、振り込み予定日を記入するようになっていたが、この意味は？」
美宅氏「予定日を参考にして振り込みの有無を確認するため、準備する側にとっては便利な項目となっている。」
合同シンポジウムに関して以下の報告・議論があった。御子柴先生に合同シンポジウムの講演者を依頼する可能性が報告された。
柳田会長「合同シンポジウムなのに、生物物理のシンポジウムのようである（偏っている)。」
美宅氏「神経化学会の方でも講演者が挙げられている。（バランスは悪くない。)」
合同シンポジウムのプログラム集をつくる予定であることが報告され、神経化学会の方から、アブストラクトだけでも英語にしたいとの提案があったことが報告された。
猪飼氏「留学生から、アブストラクトが英語の講演を聴きに講演会場に行くと、発表が日本語でがっかりすることがある、と言われた。アブストラクトだけ英語というのは中途半端ではないか？日本語の講演をするなら日本語のアブストラクトの方が良いのではないか。」
美宅氏「このような意見があったことを合同シンポジウムの委員会で取りあげ、議論したい。」
垣谷氏から、知的財産所有権に関して学会としての姿勢をはっきりさせる必要があるのではないか（特に神経化学会との合同学会では両学会の間である程度のコンセンサスが必要なのではないか）という意見が出された。長期的に検討する必要と、短期的に取り組む必要性が説かれた。運営委員会では、永山委員（今回欠席）を中心に検討する体制となっていることが確認された。新潟での年会では、美宅氏を中心とする年会実行委員会で方針を固めて欲しいという旨が伝えられた。
柳田会長「シンポジウムではオーガナイザーに、ポスター発表では発表者に写真等による記録の是非を尋ね、了承を得た場合のみ許可するというのはどうか。」
阿久津氏「神経化学会と合わせるべきではないだろうか。」
これらの意見、ならびに神経化学会側の方針を考慮し、次回の運営委員会（７月）で議論し、最終的な方針を新潟での年会に間に合わせることになった。

５　　平成１６年度年会準備状況　　（森島；資料なし）

標記の件について会場に関して三木氏より報告があった。１２月１３（月）から１５日（水）京都国際会館にて行う。シンポジウム４会場、ポスター１会場（３００ポスター；アネックスホールで展示と一緒)。懇親会は２日目の１２月１４日（火）に予定（桜ホール)。会場費は９００万円の予定である。（名古屋大での会場費は１００万円。新潟での会場費は未定。）ランチョンセミナーは１２（以上）の演題を想定している。展示会場の重点などにより資金繰りを検討している。生化学会は１０月１３－１６日（横浜)、分子生物学会は１２月８－１１日（神戸）で行われる予定。会場運営は学会員で行う予定である旨が伝えられた。
猪飼氏より、「幅９０ｃｍでは狭いのでないか？また、ポスターの聞く方のマナーを改善するよう（長

時間占有しないなど)、何らかの指導をすべきではないか？」という意見が出された。
三木氏からは、「ポスターボードの間は 4.5 mあるので、狭く感じないであろう。」との返答があった。
マナーに関しては、平成１５年度年会（新潟）においても何らかの方法で喚起する旨が伝えられた。平成１６年度年会（京都）ではポスタープレビューを考えていることが述べられた。

６　　平成１６年度科研費審査委員候補者選挙結果報告　　（佐甲；資料：報６）
標記の件について佐甲氏より報告があった。
児玉副会長「投票数についてはどうか？」
佐甲氏「投票数は増えおらず、ほとんど変化ない。」
森島氏「やり方に問題はないだろうか？得票数が少なく偏った結果にならないだろうか。」
この点に関しては後の議題でも取りあげられる。
柳田会長「この結果（資料：報６）を見る限り、実際には裏工作はされておらず、健全な投票が行われていると判断して良いであろう。」
児玉副会長から猪飼氏に生化学会での状況に関しての質問があったが、やはり投票数は少ないのではないかという返答であった。
児玉副会長「投票数が増えると期待していたが、変わらなかったのは残念。」

７　　日本学術会議第１９期会員候補者及び推薦人について　　（柳田；資料：報７）
標記の件について柳田会長より報告があった。
例年、会長と副会長で決めている。（物理学会の承諾を得て）四つある物理学会からの候補者の一人を生物物理から推薦することが可能であるという状況。物理学会においても活躍されている郷信広先生を候補者とし、推薦人として垣谷、美宅両委員（柳田会長を推薦人予備）とすることが報告された。分子生物学や細胞生物学の場合には、分子生物学会、細胞生物学会から選ばれることが多いため期待はできないが、資料のように決定したことが報告された。
８　　科研費アンケート結果報告　　（児玉；資料：報８）
議題の６にも関係する標記の件について児玉副会長から報告があった。科研費の審査部門の改訂に伴い、より関わりを持つ部門の割り振りに役立てるために、前回の年会において、あるいはオンラインで実施したアンケートの集計結果が報告された。研連委員長（郷信広先生）より推薦依頼があった際に、議題６で得票数の多かった会員の専門分野をこのアンケート結果に基づいて振り分けることができ、作業を軽減することができる。

９　　平成１６年度科件費審査委員候補者選出について　　（児玉；資料：報９）
標記の件について児玉副会長から資料のように報告があった。学会側では児玉副会長を中心に（４月下

旬から）進める。また、郷信広先生から、推薦候補者のデータベースを作るための謝金（アルバイト）が要求された旨が報告された。

１０　　その他

垣谷氏から前回の研連（横浜）に関して報告があった。「本年度の科研費審査の応募や科研費審査委員候補者の選挙に関して適正になされたかどうかが議論された。しかしながら現時点では結果が完全に揃っていなかったため、議論が充分になされなかった。結果が揃い次第、これに関してアンケートやワーキンググループの設立など、次期会長（石渡氏：今回欠席）へは郷信広先生から提案された。」運営委員会では、石渡次期会長を中心に対応することが確認された。

議　　題：

１　　平成１４年度決算報告（案）の承認　　（阿久津；資料：議１）

標記の件に関して阿久津氏からまず報告があった。収入（概数）は繰越金１，３０１万円、年会一時立替１３２万円、年会準備金５０万円を含む５，０７１万円（実収入３，５８８万円）となり、支出（概数）は年会立替▲６３万円、年会準備金▲５０万円を含む２，８９１万円となる。収支は実質６９７万円の黒字となる。この黒字の大部分（約４００万円）は年会（名古屋）での黒字である。会誌電子化・将来事業特別会計に関しては一般会計から１００万円の収入があり、支出は電子化費用３８万円（概数）があり、３，０４７万円（概数）の繰り越しということになる。また、平成１３年度から計上している啓蒙事業費が平成１３年度には６２万円（概数）であったのに対し、平成１４年度には０になっているのは、企画がなかったためであると補足があった。企画（宣伝広告など）や若手からの提案を期待する旨が阿久津氏・柳田会長から出された。阿久津氏「この予算は１０万円となっているが今年度からは５０万円の増額とし、実質的には約２００万円は使える。」

２　　平成１５年度予算の執行状況と予定　　（阿久津；資料：議２）

阿久津氏より標記の件に関して、資料（平成１５年度の予算試算表）に基づいて報告があった。今年度から学会の会計業務を学会センターに委託することになったが、学会センターによるはじめての会計業務であることが紹介された。（なお、会計業務の追加により１５０万円の増額となった。）大きな資産と繰越金があることが再認識された。啓蒙事業費には、６０万円を計上し、企画や若手からの提案を期待する旨が再び出された。学会準備金を現行の５０万円から１００万円程度に増額して欲しいとの要望が三木氏よりあった。（和光市での年会には２００万円の準備金を用意した。）年会実行委員会からの具体案（金額）の提出を待って運営委員会で対応することになった。

３　　特別会計について　　（阿久津；資料：議３）

標記の件について阿久津氏より、特別会計（概算３０００万円）の管理に関しても学会センターに管理を依頼する提案が出された。（運営は学会で。）
阿久津氏「この管理にかかる業務委託費に関しては調査し、次回の運営委員会にて報告する。」
運営委員会はこの提案を承認した。なお、特別会計は電子化や将来事業などに充てられる。

４　　学会業務委託に関して　　（阿久津；資料：議４）
標記の件に関して阿久津氏から資料（学会事務センターとの業務委託の契約書）に基づいて報告と説明があった。従来は会計業務以外の業務を委託してきたが、今年度から会計業務も委託することになる。その場合の業務委託金の差額は１５０万円となる。

５　　中部支部設立について　　（垣谷；資料：議５）
垣谷氏より資料のように提案された。現在、生物物理学会の支部には北海道、東北・九州の３支部がある。生物物理学会中部支部は、昨年の年会（名古屋大学）の際に「中部地方での教育・研究の交流を活性化する」という目的で議論が沸きあがったものである。昨年の年会で約４６０万円の余剰金が計上されており、学会運営に充てられている。この余剰金から、生物物理学会にはその設立・運営のために１６０万円の補助を求めたい、というものであった。運営委員会では会計報告を条件にした上でこれを承認した。なお、ここでの中部とは愛知県、三重県、岐阜県、静岡県、長野県、福井県、石川県、富山県の８県とその周辺地区を指す。支部としての活動は、講演会の開催や若手の活動の支援などを予定しており、これらの運営に必要な費用に年間およそ２０万円を充てる予定である旨が伝えられた。
５(B)　平成１５年度年会の準備金について
　　美宅氏（年会実行委員長）より、準備金の借り入れの申し出があった。すでに学会からは５０万円の借り入れがあるが、新潟までの交通費などにより、現実に不十分であるため、１００万円の追加借り入れが要求された。運営委員会はこれを承認した。

６　　会誌オンラインジャーナル化に対する会誌編集委員会から運営委員会への公式意見
（入佐；資料：報３）
７　　平成１３年度第３回運営委員会議事録でのオンラインジャーナル化方針の解釈
（入佐：資料なし）
入佐氏より会誌に関する意見交換（報３−６）と平成 15 年度の第 2 回運営委員会議事録から、オンラインジャーナルに関して報告があった。
平成 15 年度の第２回運営委員会議事録からは以下の部分が読み上げられた。
【出版委員会（入佐氏）より、「生物物理」の e-journal 化に関して柳田会長案が紹介された。現行の紙媒体を薄くし、連絡事項のみを掲載する。一方、内容はオンラインジャーナルにする。執筆依頼した

レヴューのみという現行から改変し、英文の査読論文（一次論文）を組み込み、議論されてきた「advances in biophysics」と統合し、生物物理の e-journal に一本化して運営する。現行のレヴュー誌機能を廃止する訳ではないことが再び強調された。ライセンス製にし、端末で閲覧できるシステムにすることが提案された。運営委員会ではこの提案を支持することが承認され、編集委員会で発展させ具体的に議論を進めることになった。】

会誌編集員会では、議事録のこの部分を基に、会誌の将来に関する議論がなされ、以下のような結論に達した。会誌編集委員会議事録の以下の部分が読み上げられた。

【過去の運営委員会（前会長任期期間を含む）において学会誌のオンライン化の方向性は既に決まっていることを理解した上で、その方針の見直しを要求する意見を会誌編集委員会全体から運営委員会への意見として出すことが決まった。その意見は以下のものである。「オンラインへ移行すると自発的なアクセスがなければ会誌は読まれなくなる。現在の「生物物理」のレビューを含む記事部分は、紙媒体として配布されることにより初心者や分野外の会員にも手軽に読むことができる利点を持つ。運営委員会はこのような利点のある紙媒体を残すため最大限の努力をして欲しい。最低限、レビュー部分（現在の会誌の記事部分）は紙媒体に残す努力をしてほしい。」】

（つまり、運営委員会で決定したレビュー部分のオンライン一本化に対して反対であり、見直しを求める。）これに対して、会誌編集委員会へ何らかの回答をして欲しい。

入佐氏からは、平成１３年度の第３回運営委員会議事録から以下の内容が読み上げられた。

【伊藤委員からは、「生物物理学会は、オンライン化することによりどのようなメリットを求めたか？」との質問があった。これに対し、郷会長からは、「そもそもオンライン化自体はよいことであり、積極的に進めて行くべきである。また紙による会誌をなくしてコスト削減も期待されるが、現時点で紙の会誌をいつなくすかは議論していない。」との回答があった。】

つまり、紙媒体の扱いに関しては予算の関係に由来すると解釈することもできる。しかしながら、今まで紙媒体の取り扱いに関して運営委員会では議論されていたかもしれないが、何も決まっていなかったと解釈することもできる。つまり、前回（平成１５年度第２回）の運営委員会で決まった「紙媒体を薄くする」方針（特にレビュー部分を紙媒体から外すこと）は、前回の運営委員会ではじめて議論され決定したことになる。この点に関して運営委員会で肯定できるかどうかがこの議論のポイントとなる。

一次論文に関してもいくつかの批判的な意見が出されたことが、入佐氏、阿久津氏から資料のように報告された。査読に関しては会誌編集委員以外に依頼し、委員の負担をなるべく増やさないという柳田会長案が確認された。

また、入佐氏からは今年度中に JST の jtage が jstage2 に移行することが報告された。この際の問題は、「生物物理」が検索の対象にならなくなる（巻頭言などの論文以外のものが含まれる場合、検索の対象にならなくなる）というものである。

柳田会長からは「全体的な方針（紙媒体を薄くする）に関しては運営委員会で決定したのだから、会誌

編集委員会では技術的な問題を検討してもらいたい。」との旨が出された。
中村氏から「両委員会が話し合う場をつくるために、両委員会から委員を選出してワーキンググループ（ＷＧ）をつくってはどうか？」という意見が出された。上田氏からは「学会として紙媒体をどうするのかという将来の大切な事柄であるため慎重に議論した方がよい」という意見が出された。会誌担当である美宅氏を中心にＷＧが組まれ、この問題に建設的に取り組むことで意見がまとまった。構成員としては柳田会長、石渡次期会長、猪飼氏、有坂氏、阿久津氏、入佐氏、佐上氏、美宅氏、さらに会誌編集委員会から１名（未定)、の９名を案とすることが決まった。「（紙媒体を薄くすることに関して）両委員会での温度差が大きすぎる」という入佐氏の見解が紹介された。「学会の運営が黒字である現状で紙媒体を薄くする意味は何なのか？」という意見も会誌編集委員会で出された。また、前回（平成１５年度第２回）の運営委員会議事録に残されていなかった「紙媒体（「生物物理」）を手に入れることが主な目的である会員のことを考えなくても良いのではないか」という柳田会長の意見が紹介された。
阿久津氏「この意見は会長の意見であって運営委員会のコンセンサスではないはず。会誌編集委員会に持っていく際には慎重になるべき。」
柳田会長「議論の経過報告として議事録に残すことは良いとしても、最終的な決定事項とは区別すべき。」
猪飼氏からは「会誌編集委員会でこのような意見が出るということは、一般会員からもこのような意見が出るのではないか？一般会員に対して説明が足りないのではないか？この点に関して会長から説明すべきなのではないだろうか？」という意見が出され、柳田会長もこの意見に賛成した。
入佐氏からは JST と jstage に関する長年の問題が紹介され、「生物物理」は jstage をやめても良いのではないかという考えが出された。この意見には中村氏からも、JST 以外の団体・企業に委託することも考えても良いのではないかと意見が出された。以下、JST に関して様々な意見が出された。
美宅氏「JST では、オンライン投稿ができないなど全てがオンライン化されているわけではない。」
猪飼氏「オンライン化にしても（宣伝広告や管理などで）経費が必ず削減できるというわけではないのではないだろうか？」
阿久津氏「Jstage2 では、課金されるのでは？」
入佐氏「課金することも可能になるだけであって、課金するかどうかは学会で決める。」
また、入佐氏からは会誌関係の予算が削減されている点に関して意見が報告された。１．会誌編集委員会では全員が参加すると旅費が足りない。２．会誌編集委員が JST の会合に出席する際などに旅費が自己負担になる。サイペックス社も青山氏も参加されている。
阿久津氏「電子化の予算も組んであるし、申請すれば旅費は出る。編集の予算とは別枠で用意できる。」
以下は、運営委員会の後に開かれた j-stage に関する会合に参加した入佐氏のレポート（電子メール、以下は入佐氏による抜粋・要約）
【４月１７日に行なわれた科学技術振興事業団情報加工分析部による科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)利用学会意見交換会説明会に参加してきましたので、御報告します。

重要な点は４点です。
１．jstage2 でもオンラインジャーナル「生物物理」は、現在の形態のままで検索可能となる。
２.jstage の有料化は財務省から言われている。学会が有料公開によって利益を得るようになれば、jstage の有料化（5 パーセント程度？）は避けられないとのこと。
３．初期参加の学会（生物物理学会等）に約束していた JST による学会側の電子化作業の技術的サポートは撤回／断念。ほとんどの学会は、JST との間に電子化作業の業者を入れている。つまり、待ってもこれ以上の学会側の電子化作業軽減は JST に期待できない。jstage2 になると電子化の作業がさらに追加される模様。
４．jstage 説明会は電子化作業を請け負う業者と JST との協議の場であり、学会担当者が直接参加してもほとんど意味のない会合になっている（参加している少数の業者が jstage 賛美を強調する)。別途、希望する少数の学会から構成された「ユーザー会」を作るとのこと。】

8　　平成１５・１６年度委員候補者補充について　　（佐甲；資料：議８）
標記の件に関して佐甲氏より資料に基づいて説明があった。会員による選挙から２４名の候補者が選ばれたが、現運営委員による推薦を加えて１００名程度に候補者を増やして選挙を行うという案が出された。運営委員会はこれを了承し、運営委員は４月１８日までに候補者の推薦を行うことになった。方法は、ほぼ例年通りであるが、特に推薦する候補者３名と、推薦する候補者３０名を挙げる。「特に推薦する」候補者は無条件で候補者になるが、そうでない場合には会員による選挙の得票数に加算し上位から候補者になる。

9　　平成１５・１６年度委員選挙要項（案）　　（佐甲；資料：議９）
標記の件について佐甲氏より資料に基づいて説明があった。６月２０日を締め切りとし、運営委員の選挙を行う。方法は例年通りで、６月２３日に公開で開票を行う。特に異論はなかった。

10　　電子図書館サービスでの PDF 公開について　　（資料：議１０）
標記の件について児玉副会長と入佐氏を中心に議論された。これは前運営委員の柴田氏を中心に対応されていたようである。問題は、この電子図書館サービスで PDF 公開を希望するかどうかである。（現在は非公開となっている。）美宅氏より「jstage は旧科学技術庁系で、電子図書館サービスは旧文部省系」との説明があった。入佐氏の PC からアクセスしたところ、過去全ての会誌（年会予稿集も含む）が登録されており、課金の設定もされているようであった。表示が５円で印刷が１０円。松本会長の時に設定されているという説明が河合秘書からあった。学会からの協力の有無に関わらず、（スキャナーで取り込んで）PDF 化しアーカイブの作成をしていると考えられ、学会が協力し PDF ファイルを提供すればそれが収録されるようである。

児玉副会長「美宅氏を中心とするオンラインジャーナルＷＧでの方針決定の後に対応するとして、当面は公開を止めておいてはどうか？」
猪飼氏「公開を止める必要はないのではないか。オンラインジャーナルとは切り離して対応すればよいのではないか。」
このようなやりとりの結果、公開することで決定した。課金については、「生物物理」に価格があることなどから、現状のままということになった。PDF ファイルについても従来通り提供しないということになった。

11　　生物物理学会ホームページのリンクについて　　（薬師；資料：議１１）

標記の件について薬師より報告と提案があった。問題は繋がらないリンクがあるということと、現在リンクされていない研究室・研究機関・研究会に対してチャンネルがない、の２つである。そこで３つの提案がなされた。１．リンクが繋がらない研究室に連絡をとって正しい URL にリンクする。２．リンクを貼って欲しい研究室等のホームページをメールなどで募る。３．いずれの場合も HP の責任者のメールアドレスの提出を義務づけ、メールでの連絡ができない場合などはリンクを解除する。「いたずらにリンクの数が増えても、使いにくい HP になるのではないか」という心配もある。このリンクは郷道子会長の時に、高校生に向けてという意味でつくられたものであり、その時に希望を出した研究室が掲載され、依頼ほとんど更新されていないのではないか、と阿久津氏と三木氏から説明があった。この提案は承認され、会誌「生物物理」を通じて会員に告知できることになった。会誌掲載の原稿作成・リンクの作成はホームページ係の薬師が担当する。

12　　日本生理学会との年回共同開催について　　（柳田会長；資料：議１２）

標記の件に関して柳田会長から資料のように報告があった。日本生理学会は積極的に年会の共同開催を進めており、生物物理学会との共同開催を希望している旨が、曽我部氏（名大）を通して日本生理学会の広報幹事（岡田氏）より伝えられた。生理学会は例年春に行われている。生物物理の年会は京都（０４年度）の次が北海道（０５年度）の予定であり、０６年度以降で共同開催を曽我部氏と（開催時期などを）協議して取り組む旨が柳田会長から提案され承認された。年会が無理なら、他の形で共同事業というのも視野に入れて曽我部氏と協議することになった。

13　　学会秘書給与について　　（柳田会長）

従来、曖昧だった学会秘書の雇用形態に関して柳田会長から提案があった。この提案に基づいた場合の試算が児玉副会長から報告があった。現在、二つの可能性を考えられる。１．学会事務センターに雇用され、派遣される。２．生物物理学会自身が雇用する。いずれの場合にも、現状よりも若干の負担が学会にかかることになることが確認された。運営委員会では会長からの提案に対して異論はなく、雇用形

態の改善に賛成し、これが承認された。ただし、具体的なことに関しては、会長と副会長で案を作成し、改めて運営委員の意見を求めることになった。いずれの場合にも、秘書業務に大きな変化をもたらさないような移行を希望するという意見が出された。具体的な金額は、「手取りで現状を維持する」ことが承認された。大学などで日々雇用した場合と同程度の給与を目安として検討することが柳田会長から提案された。運営委員会では、柳田会長と児玉副会長の次の調査をふまえ、電子メールなどによりなるべく早急に検討することで承認された。

入佐氏「会誌編集での青山氏の雇用形態はどうなのか？」

阿久津氏「編集委員長補佐として、生物物理学会長が（きちんと契約して）雇用している。」

以下は児玉副会長より柳田会長名で４月１６日に送付された電子メール（一部改変）。

４ 月 ５ 日（土）の運営委員会において、学会秘書の報酬支払いの正常化および待遇改善 をはかることが決定し、その方法について、会長と副会長が学会事務センターに問い合わせながら検討した結果、次のような結論に達しました。

0．現在の時間雇いから大学事務補佐員と同様の日々雇用に近い形にする（いわば年俸 制）。

1．本学会は、税法上給与として支払う（所得税を源泉徴収する）ことのできる団体 ではない。

2．したがって、源泉徴収の代行が可能な学会事務センターに便宜上の支払い事業者と なってもらう。（センター内部では、臨時雇用の職員扱い）

3．国民健 康保険・国民年金に加入してもらう。

これらの点を考慮して、報酬支払いの正常化および待遇改善を次のようにする（案）。

〇給与：月給+賞与２ヶ月

〇新たに加入する国民健康保険・国民年金（月払い額×12）と所得税分（月給＋賞 与）を支払い総額に含める（所得税分は源泉徴収で保険と年金は自己払い）。

〇事務センターに源泉徴収代行手数料３万円を支払う。

〇月平均手取り額を約１万円上げる。

〇交通費は実費

〇有給休暇を年 10 日とする（初年度）

このようにすると、大学事務補佐員の待遇とほぼ同様になります。また、学会の負担額は若干増えます。

このような方法で話を先に進めたいと思いますが、意見のある方は来週末までにお聞 かせください（メール宛先は副会長　児玉）。

生物物理学会　会長　柳田　敏雄

14　　その他

１．メーリングリストについて

学会のメーリングリストの使用を保留していた件に関して議論を行った。メーリングリストを不作法に

使うと、読まれなくなるという意見も出され、きちんとした制御が必要であることが確認された。そこで、「生物物理の業務に密接に関連した情報」に限定して使用し、その判断は会長と副会長の解釈に委ねる旨が提案され、承認された。なお、発信者は原則として学会秘書に限定する。

２．訃報の際の公式な香典・供花について

昭和６１年および６２年度日本生物物理学会会長・京極好正先生、ならびに平成１０年および１１年度日本生物物理学会会長・松本元先生の訃報の際には、運営委員、部門別専門委員、会誌編集委員など限られた学会員に対して電子メールによる通知を行ったことが児玉副委員長より報告された。（当時、柳田会長が不在であったことが付け加えられた。）また、学会からの公式な香典・供花は、学会長経験者ならびに現学会長にのみ限る旨が、柳田会長より提案され承認された。

３．学会サーバ運営に関して

入佐氏より、学会サーバ運営の現状とその問題点について報告があった。現在は入佐氏の所属する九工大で運営・管理しているが、セキュリティー強化のあおりを受け、運営・管理がごく限られた者に限定され、従来のような運営・管理が難しい。そこで、新たにサーバを設営することが考えられるが、そのための費用に関して相当な額が必要である旨が報告された。（特別会計から充てて欲しい。）以前行ったオンラインアンケートを行うと、１００万円程度必要となる。

以上

議事録作成：薬師　寿治